

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒の資質・能力を向上させるため、ICTを活用した組織的授業改善に取り組む。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①ICT活用能力のさらなる向上を目指しOJTや公開研究授業を組織的に実施する。一人一台端末の活用を進めながら校内ICT環境を整備する。</p> <p>②新学習指導要領の実施に伴い、教育課程編成上の課題を見出して対応を検討していく。</p>	<p>①これまでに積み上げたICT活用方法を土台に、幅広い活用ができるようソフト・ハードの両面でICT環境の整備をする。</p> <p>②新学習指導要領の教育課程を展開する中で、課題を整理し、適切な方法を検討し即時に対応できたか。</p>	<p>①教員のICT活用拡充に向けて、その手立てを組織的に検討することができたか。</p> <p>②見出した課題について、当該教科や関連グループと連携して適切な対応がとれたか。</p>					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①生徒の規範意識を高めるとともに、生徒自身が規範意識に結びついた行動がとれるよう保護者等と連携しながら取り組む。</p> <p>②日常的に生徒情報を共有するとともに、支援が必要な生徒に対し外部資源を積極的に活用する。</p> <p>③生徒主体の学校行事・部活動運営を支援しリーダーシップを育成する。</p> <p>④部活動加入率、継続率の向上を目指し、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①遅刻指導では遅刻の原因、改善のための方策を生徒と一緒に考え、遅刻が改善されるよう指導を行う。</p> <p>②SC、各年次の教育相談担当で情報共有を行い、支援が必要な生徒には、外部資源の活用を含めて対応する。</p> <p>③生徒が主体的に学校行事に参加し活気ある活動ができるよう支援する。</p> <p>④生徒会役員や部活動加入生徒と連携をし、加入率向上や活性化に向けた取り組みを支援する。</p>	<p>①遅刻を繰り返す生徒が自らの行動を振り返り、行動を改善することができたか。</p> <p>②情報共有の中から支援が必要な生徒を早期に発見し、SC・SSWや外部資源に活用ができたか。</p> <p>③委員会や生徒会執行部の活動、部活動を生徒主体で進めることができたか。</p> <p>④部活動の加入率を高め、継続率80%以上であったか。</p>					
3	進路指導・支援	<p>生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができる進路指導を展開する。</p>	<p>①生徒の進路希望実現に向けて、学校・家庭が一体となった進路指導体制の充実を目指す。</p>	<p>①教員のガイダンス力を高める研修会を実施するとともに、保護者等が進路に関する情報をより多く収集できるような説明会を開催する。</p>	<p>①今日の進学や就職の状況やポイントについて情報を発信および共有し、よりよい進路指導につなげることができたか。</p>					

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		② ICTを活用しながら、生徒の学力向上に向けての支援を行う。	② 1・2年次生については全員年3回の模試を契機に学力や学習習慣を改善させる。3年次生については外部模試の受験を積極的に促し、進路選択の幅を広げさせる。	② 教育支援システムを活用し年3回の模試の分析結果を生徒に提示することで改善を図ることができたか。延べ20名以上の3年次生が外部模試を受験し、その結果を進路選択に活かされたか。					
4 地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	① 新型コロナウイルス感染症との共存の中、地域との連携・交流の可能な場を模索し、相互に有益な協働を実現する。 ② 日々の学校生活に表れている本校の魅力と特色を分かりやすく発信することで、地域からの信頼を得られるようにする。	① 感染症対策を徹底した上で、地域のボランティア活動等に生徒が安心して参加できる環境づくりを行う。 ② 対面での情報発信が難しい中、ホームページの更新回数を増やし、新しい情報を具体的に視覚的に発信する。	① 地域との交流を経験した生徒の7割以上が達成感を覚え、自分の成長を感じることができたか。 ② 学校説明会や学校見学会での情報発信と、ほぼ同量同質の情報をホームページから発信することができたか。					
5 学校管理 学校運営	① 学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ② 三ツ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③ 事故・不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。 ④ 教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	① 感染症対策を継続し、家庭を含めた学校の衛生管理体制と防災体制を確立する。 ② 本校の教育活動との融合計画を策定し、インクルーシブ教育の実践に備える ③ 常に当事者意識を持ち、不祥事をゼロとする職場づくりを行う。 ④ 休暇の取得日数の増加と超過勤務時間の減少を目指す。	① 清掃活動・消毒作業の徹底を継続するとともに、PTAと連携して、家庭での感染対策の向上を図る。危機管理マニュアルを策定する。 ② ワーキンググループを中心に融合計画を策定する。 ③ 不祥事防止研修や事例紹介を継続するとともにセルフチェックを徹底する。 ④ 衛生委員会を活用して、休暇取得状況及び超過勤務時間集計をチェックして、職員に啓発する。	① 衛生管理体制を向上させ、感染者数を昨年度より減少させることができたか。危機管理マニュアルを完成・周知することができたか。 ② 融合計画を策定し、インクルーシブ教育の実践に備える研修を実施できたか。 ③ 当事者意識の高い職場をつくり、不祥事ゼロを達成できたか。 ④ 昨年比で休暇の取得日数は増えたか。超過勤務時間の平均は減少したか。					